

## 教科に関すること

### 1 小学校国語に関すること

#### (1) 全体的なこと

##### 平均正答率について

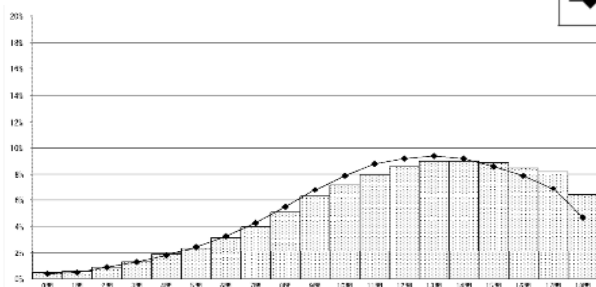
教科	国語 A			国語 B		
	19年度	20年度	21年度	19年度	20年度	21年度
千葉県	82.2	66.7	71.0	64.0	51.4	51.5
全国	81.7	65.4	69.9	62.0	50.5	50.3
差	+0.5	+1.3	+1.1	+2.0	+0.9	+1.2

平成21年度の小学校の国語の正答率は、過去2年間同様、A・Bともに全国とほぼ同程度である。

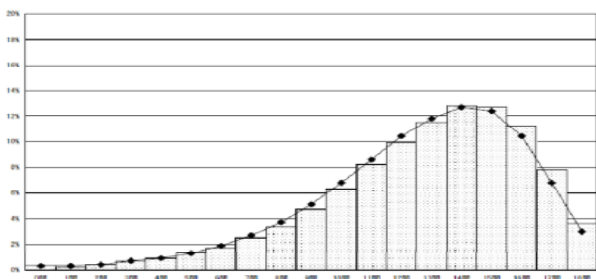
##### 正答数の分布について

###### <国語 A>

平成20年度

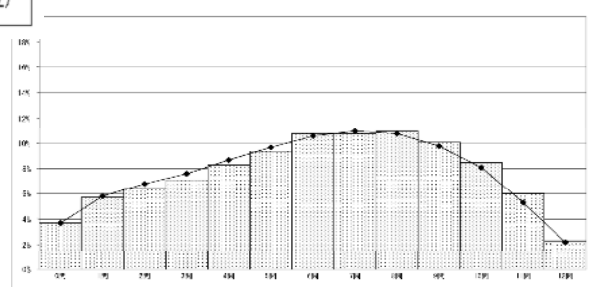


平成21年度

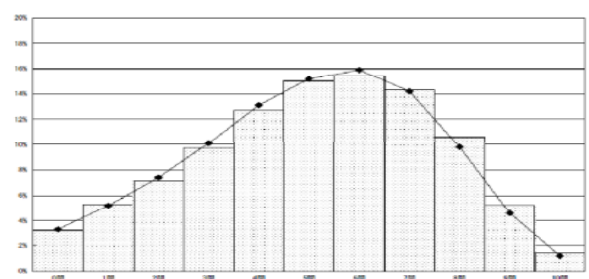


###### <国語 B>

平成20年度



平成21年度



(平成21年度の分布について)

平成21年度の小学校の国語Aの正答数の分布では、上位層の割合が全国に比べてわずかに多い。

小学校の国語Bの正答数の分布は、全国とほぼ同じ形である。

標準偏差について

教科	国語 A			国語 B		
	19年度	20年度	21年度	19年度	20年度	21年度
千葉県	2.7	4.1	3.4	2.6	3.2	2.4
全国	2.8	4.0	3.4	2.6	3.1	2.3
差	-0.1	+0.1	0	0	+0.1	+0.1

平成21年度の小学校の国語の標準偏差は，A・Bともに全国とほぼ同程度である。

中央値について

教科	国語 A			国語 B		
	19年度	20年度	21年度	19年度	20年度	21年度
千葉県	15.0	12.0	13.0	7.0	6.0	5.0
全国	15.0	12.0	13.0	7.0	6.0	5.0
差	0	0	0	0	0	0

平成21年度の小学校の国語の中央値は，A・Bともに全国と同じである。

(2) 設問別について

県平均正答率が80%以上の設問について(平成21年度のみ)

平成21年度<国語A>

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	千葉県正答率	全国正答率	差
1-(1)	漢字を読む(駅は混雑している)	学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく読む	94.9	95.2	-0.3
1-(2)	漢字を読む(春から夏へ季節が移る)		95.4	91.1	+4.3
1二(2)	漢字を書く(人の意見にさんせいする)	学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく書く	80.7	78.3	+2.4
4ア	実験報告文の小見出しとして適切なものを選択する	文章の内容に合わせて，小見出しを書く	88.0	86.1	+1.9
4イ			95.3	94.7	+0.6
4ウ			94.2	93.9	+0.3
6	図鑑を読んで必要な内容をとらえる	段落の内容を的確にとらえる	80.9	78.7	+2.2

平成21年度<国語B>

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	千葉県正答率	全国正答率	差
4一	作戦カードをもとに、ボールを渡す順番を整理する	目的や意図が伝わるように必要な情報を取り出す	85.8	86.1	-0.3

今回出題された漢字の読み書きについては、多くの児童が理解している。段落の内容を的確にとらえることや文章の内容に合わせて小見出しを書くことは、多くの児童が理解している。話し手の立場や意図をとらえて聞くことについては、多くの児童が理解している。目的や意図が伝わるように必要な情報を取り出すことは、多くの児童が理解している。

全国平均より大幅に高い（5ポイント以上、上回っている）設問について  
 平成19年度<国語A> ・該当なし  
 平成20年度<国語A>

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	千葉県正答率	全国正答率	差
3	文章を読み返して、書き直したほうがよい理由と方法を選択する	文の構成や表現の効果を確かめ、正しく推敲する	43.2	33.7	+9.5

平成21年度<国語A> ・該当なし  
 平成19年度～21年度<国語B> ・該当なし

全国平均より大幅に低い（5ポイント以上、下回っている）設問について  
 文部科学省は全国平均より（5ポイント以上、下回っている）場合には課題があるとされている。

平成19年度～21年度<国語A> ・該当なし  
 平成19年度～21年度<国語B> ・該当なし

国語A及びBについて、全国と比べ5ポイント以上、下回っている設問はなく、大きな課題は見られない。

千葉県の平均正答率が50%に満たない設問（平成21年度）について  
 （半数以上の児童が理解できていないことであり，課題があると考えられる設問）

< 国語 A >

設問番号	学習指導要領の領域等	設問の概要	千葉県正答率	全国正答率	差
2_1	言語事項	ローマ字で書く（たべもの）	47.8	45.5	+2.3
8	言語事項	接続語を使って一文を二文に分けて書く	16.9	14.7	+2.2
9	言語事項	毛筆の下書きについて書き直す内容を書く	31.1	29.0	+2.1

< 国語 B >

設問番号	学習指導要領の領域等	設問の概要	千葉県正答率	全国正答率	差
1一	書くこと	報告文を読み，メモの中に調べた内容の1つめを書く	12.9	11.4	+1.5
1二	書くこと	報告文のまとめとして，調べて分かったことを書く	19.4	17.7	+1.7
2二	話すこと・聞くこと	「そうじや整とんによく取り組んでいる」とする立場から自分の考えを発表する	26.2	25.7	+0.5

（3）分類・区分別集計について

平均正答率の比較（±5ポイント以上の設問）

平成19年度～21年度<国語A> ・該当なし

平成19年度～21年度<国語B> ・該当なし

全ての分類・区分において正答率は全国とほぼ同程度である。

無解答率について（±5ポイント以上の設問）

平成19年度～21年度<国語A> ・該当なし

平成19年度～21年度<国語B> ・該当なし

全ての設問において無解答率は全国とほぼ同程度である。

#### (4) 小学校国語の課題

##### 主として「知識」に関する事項について

- ・ローマ字を正しく読んだり書いたりすること。(言語事項)
- ・接続語を使って一文を二文に分けて書くこと。(言語事項)
- ・毛筆の下書きについて書き直す内容を説明すること。(言語事項)

##### 主として「活用」に関する事項について

- ・自分の立場や意図を明確にして話し合うこと。(話すこと・聞くこと)
- ・話の組み立てを工夫しながら，図を使って説明すること。(話すこと・聞くこと)
- ・報告文に必要な事柄を整理したり，事象や意見などを関係付けながら書いたりすること。(書くこと)
- ・主人公の行動や心情を描写した文章の表現の工夫をとらえること。(読むこと)

#### (5) 主な対策

##### 主として「知識」に関する事項について

- ・ローマ字の読み書きについては，規則性を押さえながら指導することが重要である。また，国語科のみならず，他教科等でもコンピュータを使う学習を設定し，ローマ字入力させることで，繰り返し替えしローマ字を使う機会を増やすようにする。
- ・文や文章の構成については，学習指導要領に従い学年の段階に応じた指導が大切である。その際，自分の考えが的確に伝わるように間違いを正したり，より良い表現に書き直したりするための推敲の指導と関連付けながら指導する。
- ・毛筆については，学習指導要領に従い，学年の段階に応じた書写に関する事項を実技演習とともに確実に指導する必要がある。また，書写で学習したことを生かして文字を書かせる場を意識的に設定する。
- ・国語科のみならず全ての教科において，国語辞典や漢字辞典を積極的に活用する指導が大切である。また，家庭にも，身近なところにこれらの辞典を置くように働きかけたい。

##### 主として「活用」に関する事項について

- ・登場人物の行動や会話に加え，時間や情景などの描写に注目し，それらを関連づけながら人物の心情を正しくとらえさせる指導が必要である。
- ・学校図書館を計画的に活用し，題材の関連学習や発展学習において読書指導を行うよう心がける。その際，読み聞かせやブックトーク等，児童の読書意欲を喚起するよう，場に応じた有効な手だてを積極的に行うようにする。さらに，国語科のみならず，各教科・領域の年間指導計画に学校図書館の活用を位置づけ，積極的に学校図書館を活用していくようにする。
- ・国語科のみならず特別活動や総合的な学習の時間等において，課題解決に必要な情報(資料)を収集し，その中から目的に応じて情報を整理したり取り出したりする活動を行う。その後，資料から分かったことや考えたことをノートにまとめたり話し合ったりする場を設けるようにする。

(6) 正答率の低い設問例(小学校国語Aの設問より)

8

六年生の高島さんは、五年生のときから入っている放送委員会のことを文章に書きました。読み直した後、③の文について、「だから」を使って二つの文に分けて書き直すことにしました。「だから」を使って二つの文に分けたときの前の文の終わりの七文字と後の文の始めの七文字を書きましょう。

【文章の一部】

①放送委員会の役員を決める話し合いをした。②ぼくは、委員長を任されることになった。③新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

。だから、

設問の趣旨

文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く

正答率 16.9%(全国14.7%)

無解答率 28.2%(全国30.2%)

学習指導について

第1学年及び第2学年では主語と述語との関係について、第3学年及び第4学年では修飾と被修飾との関係や文や文章における指示語・接続語の役割について系統的に指導する。

具体的には、長い一文の中にいくつの内容が含まれているかを考えさせ、内容ごとに分けて単文を書かせる練習や、接続語を効果的に使って文を分ける練習をさせる。なお、文及び文章の構成については、自分の考えが的確に伝わるように間違いを正したり、より良い表現に書き直したりするための推敲の指導と関連付けながら、様々な機会をとらえて継続的に指導することが重要である。(平成21年度全国学力・学習状況調査 小学校「授業アイデア例」国立教育政策研究所教育課程研究センター作成 参照)

(7) 正答率の低い設問例(小学校国語Bの設問より)

2

川口さんの学級では、家族の一員としてできることを考えるために、家庭での過ごし方について調べました。次は、川口さんのグループが集めた資料をもとにした話し合いの様子の一部です。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

【資料】 家の中のそうじや整とんをする小学校6年生の割合

	いつもしている	ときどきしている	あまりしていない	まったくしていない	無回答など
平成16年	15%	52%	24%	9%	0%
平成17年	14%	48%	29%	8%	1%

(国立オリンピック記念青少年総合センター「青少年の自然体験活動等に関する実態調査」による。)

司会 「ここからは、川口さんたちが集めた『資料』をもとにして、『家の中のそうじや整とん』について話し合います。『資料』を見て分かったことや考えたことを発表してください。」

川口 「平成十六年を見ると、『いつもしている』人が少ないと思います。家の中のそうじや整とんはむずかしいことではないと思います。家族の一員としての自覚をもって、積極的に取り組むべきではないでしょうか。」

松山 「確かに、平成十六年の『いつもしている』は十五％しかいません。でも、『ときどきしている』を合わせると、六十七％もあります。むしろ、よく取り組んでいるほうだと思います。」

司会 「今、二人は、平成十六年の割合から考えた意見を出しましたが、平成十七年の割合からも考えてみてください。」

村田 「わたしは、平成十七年の『あまりしていない』と『まったくしていない』に注目しました。この二つを合わせると、三十七％にもなります。しかも、平成十六年よりも増えているので、もっと取り組んだほうがいいと思います。」

あなたの発表

ア

（話し合いが続く）

話し合いで出された意見を次の [ ] の中にある二つに分けます。「川口・松山・村田」の三人は、それぞれ A・B のどちらの意見になりますか。 [ ] の中に、それぞれ A か B のどちらかふさわしいほうを選んで書きましょう。

A 最近の小学校六年生は、家の中のそうじや整とんによく取り組んでいるという意見

B 最近の小学校六年生は、家の中のそうじや整とんにあまり取り組んでいないという意見

(正解は、解答用紙に書きましょう。)

川口 [ ]  
松山 [ ]  
村田 [ ]

二 あなたは、ア のところで、前のページの [ ] にある A の意見の立場から発表することになりました。あなたならどのような内容を発表しますか。次の条件に合わせて書きましょう。

【条件】

- 平成十七年の割合(%)を取り上げること
- 六十文字以上八十文字以内にとめて、発表するように書くこと

(メモ) ※左の縦線が書き出しの目安です。使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

80字 60字

### 設問の趣旨

話し手の立場や意図をとらえて聞く

自分の立場や意図を明確にして話し合う

### 正答率

2一 76.0% (全国75.5%)

2二 26.2% (全国25.7%)

### 無解答率

2一 3.0% (全国 3.0%)

2二 11.6% (全国11.7%)

### 学習指導について

第5学年及び第6学年の「話すこと・聞くこと」において「話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと」や「自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと」を指導する。

具体的には、学級で討論するテーマや議題を決めディベートを行う学習や、学級で協議するテーマや議題に応じて、必要な図表やグラフなどの資料を集めた後、資料から分かったことや考えたことを話し合う学習等を行うことが有効である。(平成21年度全国学力・学習状況調査小学校「授業アイデア例」国立教育政策研究所教育課程研究センター作成 参照)



## 学校で取り組んでほしいこと

### 調査問題を全職員で共有する

各学校において、校内研修等により全職員で調査問題を共有することが何よりも大切なことである。

「問題の作成に当たっては、学習指導要領に示されている内容が正しく理解されるよう留意するとともに、子どもたちに身に付けさせたい力として重視されるものについての具体的なメッセージとなるように努めた。」と文部科学省が発表したとおり、これらの調査問題を見ることにより、新しい学習指導要領で求められている力が具体的に理解できる。

特に「問題B」については、国語科における言語活動が具体的にイメージできるとともに、国語科のみならず、他の教科や領域における言語活動の可能性を示唆している。このような点から、まずは、全職員で調査問題を分析することが喫緊である。

### 自分たちの学校の児童の課題を把握する

児童一人一人の結果を本人及び保護者に知らせることが大切である。同時に、学級としてはどのような傾向があるのか、学年全体としてはどうかを分析し、併せて保護者に知らせたい。例えば、児童質問紙の中の「家や図書館で、普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。」や「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館へどれだけ行きますか。」等の読書に関する質問の結果を、全国平均と比較してみるのもよい。可能であれば、学校ごとに「読書は好きですか」の回答と国語の正答率の関係を出してみるのも、興味深い。また、児童質問紙における注目すべき質問事項については、6年生以外の学年でもアンケートを実施し、学校全体としての傾向をつかみ、今後の教育活動に生かしていくことも考えられる。

### 児童の課題を解決するための対策を講じる

学級ごとに、または、学年ごとに、さらには学校全体として取り組んでいくべき対策を講じる。その際、場面に応じて、研究主任や学年主任、教頭や校長をリーダーとし、組織的に取り組んでいくことが重要である。

また、学級担任は、児童に対し、一人一人の課題に合った対策をアドバイスしたい。その際、家庭学習の方法等についても言及したいところである。

家庭での生活習慣や家庭学習については、全校の保護が一堂に会した保護者会等でその大切さを説明し、理解を求めるなど家庭と連携して取り組みたい。

### 全校で取り組んでほしい対策

#### ア 各教科等における言語活動の充実

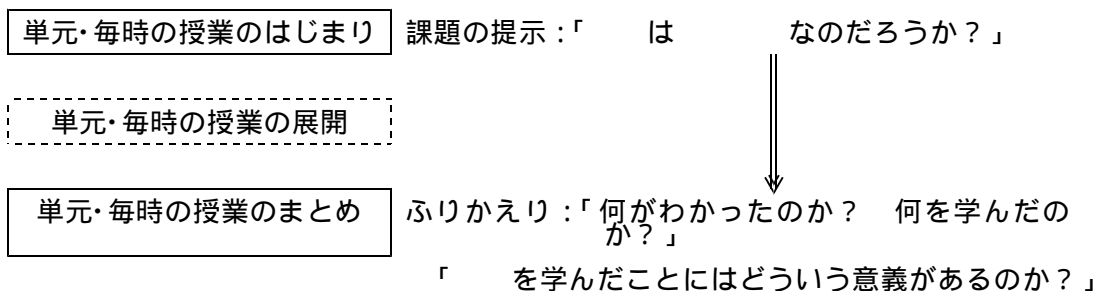
新しい学習指導要領の改善点に「各教科等における言語活動の充実」があげられ、今後は、言語活動を各教科等の指導計画に位置付け、授業の構成や進め方を改善す

る必要がある。

研究主任等が中心となって、各教科等で言語活動を授業に導入するための方策を校内研修等で検討していきたい。

特に、平成22年2月19日に千葉県総合教育センターで行われた、千葉大学教育学部伊坂淳一教授の講演の資料には、次のように記述されており、学校における具体的な取組の参考になる。

- 1 全ての教科で、全ての教師に取り組んでほしいこと  
言語による「学習課題の提示とふりかえり」の徹底



指導者：各単元・各授業のはじまりに「目標」を言語によって記述する。

学習者：各単元・各授業のおわりに「自分が学んだこと」を言語によって記述する。

実技系・芸術系教科においても、単に「感想の記録」で終わらずに、「習得した技能を言語化すること」を通して学習体験のを対象化を。

国語科においては、教材固有の課題を超えて言語の能力としてメタ化できるように。

(例)小4「ごんぎつね」……「最後の場面で兵十はどんな気持ちだったのだろうか？」から「兵十の気持ちはどのような表現によってわかるのだろうか？(表されているのだろうか?)」へ

- 2 教科ごとに取り組んでほしいこととして

各教科等の通常の授業展開時への「言語活動を伴った学習シーン」の導入

各単元の授業展開のある過程を、「言語活動を伴った学習シーン」として成立させること(=学習指導要領解説・総説編の「各教科等における具体的例示」)を。

ほとんどの指導者は、これまでも実際に無意識に行っていた学習活動であるがゆえに、それを意識的・継続的に。そして、可視的な記録として蓄積を。

各教科・各学年等で、「言語活動を伴った学習シーン」の年間シラバスの作成を。意識的に取り入れるとは、

- ・言語技能を使っての応答が必要となる発問の工夫を。
- ・言語を使って(他の学習者や授業者などに)はたらきかけることが必要となる行動の要求を。

国語科の授業では特に、

- ・言語の技能習得を目的化した単元・授業の設計、言語の技能を使うことが必然とな

る単元・授業の設計を

・言語の技能についての方法またはメタ認知を求める評価やふりかえり，発問を。  
他教科への転用事例

レポート（調査報告文／体験報告文／観察記録文／説明解説文）を書く  
鑑賞批評文を書く。

過程，方法，思考内容，解釈，読解内容，製作意図を言語で説明する。

課題解決のために話し合う 話し合った結果を記録・報告・発表する

学習展開を話し合い系の言語活動そのもの（＝グループディスカッション・ディベ  
ート・バズセッション・ポスターセッション・パネルディスカッション）によって  
実現する。

言語活動を伴った調査（例えばインタビューやアンケート）を行う 調査の結果を  
記録・報告・発表する。

「言語活動を伴った学習シーン」をどう設計するか

1. 言語活動の充実の方策のどの類型にあたるか。

体験から感じ取ったことを表現する。

事実を正確に理解し伝達する。

概念・法則・意図などを解釈し，説明したり活用したりする。

情報を分析・評価し，論述する。

課題について，構想を立て実践し，評価・改善する。

互いの考えを伝え合い，自らの考えや集団の考えを発展させる。

2. どの言語行為を実現するか。

話す・聞く行為

話し合う行為

書く行為

読む行為

3. どの言語機能の習得を目指したものか。×どの言語運用能力を目指したものか。

論理的思考力

相互伝達力

内的表出力

× 言語運用能力 ~

読み解く

（＝認識・推論・解釈・評価・判断）

記録する・報告する

説明する・解説する

描写する・表出する

（＝観察・感覚・感情・思考の言語化）

対話する

討論する

発表する

質問する・質問に応答する

提案する・主張する・説得する

案内・紹介・推薦する

音読・朗読・暗唱する

編集する

創作する

演じる

批評・評論する

4. 「各教科等における具体的例示」のいずれかの項目に関係するものが。

〔小学校〕

- ・観察や調査・見学などの体験的な活動やそれに基づく表現活動（社会）
- ・三角形，平行四辺形，ひし形及び台形の面積の求め方を，具体物を用いたり，言葉，数，式，図を用いたりして考え，説明する学習活動（算数）
- ・観察，実験の結果を整理し考察する学習活動や，科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動（理科）
- ・楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして，楽曲の特徴や演奏のよさを理解する学習活動（音楽）
- ・感じたことや思ったことを話したり，友人と話し合ったりするなどして，表し方の変化，表現の意図や特徴などをとらえる学習活動（図画工作）
- ・衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や，自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり，説明したりするなどの学習活動（家庭）
- ・自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたりする学習活動（体育）
- ・外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図る態度をはぐくむとともに我が国と外国の言語や文化について体験的に理解を深める学習活動（外国語活動）
- ・自分の考えを基に，書いたり話し合ったりするなどの表現活動（道徳）

〔中学校〕

- ・持続可能な社会を形成するという観点から，私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究させ，自分の考えをまとめさせる学習活動（社会）
- ・数学的な表現を用いて，根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合う学習活動
- ・問題を見だし観察，実験を計画する学習活動，観察，実験の結果を分析し解釈する学習活動，科学的な概念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動（理科）
- ・音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き，根拠をもって批評するなどして，音楽のよさや美しさを味わう学習活動（音楽）
- ・造形的なよさや美しさ，作者の心情や意図と創造的な表現の工夫，目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め，作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして，美意識を高め幅広く味わう学習活動（美術）
- ・衣食住やものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や，生活における課題を解決するために言葉や図表，概念などを用いて考えたり，説明したりするなどの学習活動（技術・家庭）
- ・作戦などについての話し合いに貢献しようとする学習活動（保健体育）

各教科等における言語活動の充実への対応案	
教科等	学年
単元名（内容）	
単元のねらいと指導すべき主たる事項	
「言語活動の充実」の要素	
言語活動の充実の方策：	
言語行為の類型：	
習得をめざす言語機能と言語運用能力：	
各教科等における具体的例示との関連：	
PISA型読解力の育成の方策との関連：	
「言語活動の充実」への対応の概要	
作成者：	

- ・言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う学習活動（外国語科）
- ・自分の考えを基に，書いたり討論したりするなどの表現活動（道徳）  
〔小学校・中学校共通〕
- ・問題の解決や探究活動の過程において，他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や，言語により分析し，まとめたり表現したりするなどの学習活動（総合的な学習の時間）
- ・体験活動を通して気付いたことなどを振り返り，まとめたり，発表し合ったりするなどの学習活動（特別活動）

5. 「PISA 型読解力」が目指す能力のいずれかの項目に関係するものか。

目的に応じて理解し，解釈する能力の育成

評価しながら読む能力の育成

課題に即応した読む能力の育成

テキストを利用して自分の考えを表現する能力の育成

日常的・実用的な言語活動に生かす能力の育成

多様なテキストに対応した読む能力の育成

自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する能力の育成

とあり，「各教科等における言語活動の充実への対応案」の一つの例として  
中学校第3学年の技術・家庭（家庭分野）の「言語活動を伴った学習シーンが」  
が次のように示されている。

各教科等における言語活動の充実への対応案

教科等	技術・家庭（家庭分野）	学年	中学校第3学年
単元名（内容） おもちゃ会社商品開発部			
<p>単元のねらいと指導すべき主たる事項</p> <p>○幼児のおもちゃを企画・制作し、幼児向けに説明する取扱説明書と保護者向け宣伝パンフレットを制作する。</p> <p>〔〔家庭分野〕A 家族・家庭と子どもの成長          (3)イ 幼児の観察や遊び道具の製作などの活動を通して、幼児の遊びの意義について理解する。〕</p>			
「言語活動の充実」の要素			
<p>言語活動の充実の方策：</p> <p>③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。</p> <p>言語行為の種類：</p> <p>①書く活動</p> <p>習得をめざす言語機能と言語運用能力：</p> <p>Ⅱ 相互伝達力 × ③説明する・解説する</p> <p>各教科等における具体的例示との関連：</p> <p>○衣食住やものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や、生活における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動（中学校技術・家庭）</p> <p>PISA型読解力の育成の方策との関連：</p> <p>⑤日常的・実用的な言語活動に生かす能力の育成</p>			
<p>学習活動展開の概略と「言語活動の充実」への対応場面</p> <p>1. 製作グループ（おもちゃ会社の商品開発部の各班）に分かれ、幼児の遊び道具を製作する。</p> <p>2. ①「使い方について幼児向けに説明するときの取扱説明書（マニュアル）」と②「保護者向けの商品宣伝に使うための商品パンフレット（カタログまたは仕様書）」を制作する。          ○①幼児向けのわかりやすいことばづかいでの説明を意識させる。          ○②「商品としてのおもちゃにとって必要な条件」を考えさせる。特に、安全性や意義（これで遊ぶことによって幼児の成長にどんな効果があるのか）、特徴などを言語化して表現させるようにする。パンフレットとしての見せ方にも配慮させる。</p> <p>3. プロポーザル・コンペティションを開いてもよい。各自がよく工夫できたこと、さらに工夫できることなどをふりかえり、ノートにまとめて書き出す。</p>			

作成者：千葉大学教育学部学生の原案に伊坂が加筆

以上のように、国語科以外の教科における言語活動は、各教科の学力・技能を実現させるための方法・手段であることを押さえた上で、全教科共通で取り組むべきことや、各々の教科で取り組むべきことなどを、検討を重ねながら導入したい。

## イ 学校図書館の計画的な活用

児童質問紙において「読書が好き」と答えた児童の方が、国語の正答率が高い傾向が見られる。(算数・数学についても同じ傾向が見られる。)

そこで、学校図書館を活用した授業を、国語科のみならず各教科等において実施してほしい。そのためには、学校図書館を活性化させなければならない。その具体的な方法は、すでに各小中学校に配付済みの「学校図書館の活性化を目指して」を参考にされたい。特に、その中の「学校図書館自己評価表」を有効に使い、学校全体で学校図書館を整備してほしい。来年度は、活性化されている学校図書館には県から優良マークを発行する予定であるが、全ての学校が優良学校図書館を目指して、整備、活用に努めていただきたい。

## ウ 自分の考えを発表する機会のある授業を

児童質問紙において「普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられている」と答えた児童の方が、国語の正答率が高い傾向が見られる。(算数・数学についても同じ傾向が見られる。)

また、新しい学習指導要領でも述べられているように、今後は、各教科等において、対話、発表、記録、要約、説明、論述といった言語活動を積極的に取り入れることにより、言語に関する能力を高め、思考力・判断力・表現力等の育成に力を注いでいく必要がある。

このようなことから、全教科等において発表等の言語活動を積極的に授業に取り入れていく必要がある。

## エ 各教科等においてノートを丁寧に書かせる授業を

児童質問紙において「授業でノートを丁寧に書いている」と答えた児童の方が、国語の正答率が高い傾向が見られる。(算数・数学についても同じ傾向が見られる。)

また、書くことで自分の考えが整理されたり、明確になったりする。さらに、書くことにより、論理的な思考力や判断力、表現力が育成される。

このようなことから、各教科等において、自分の考えをノートにまとめさせるなど、日ごろから書くことを授業に取り入れ、書く習慣を付けていくことが大切である。

## オ 適切な家庭学習を与える

音読の宿題を出し、家の人に聞いてもらう。読書を家庭学習として課し、読書記録カードに、家で読んだ本の書名やページ数、内容等を簡単に記録させ、「家読(いえどく)」を推奨する。また、日記を書かせたり、高学年であれば、新聞の記事に対してのコメントを書かせたりする。このような例を参考に、児童の発達の段階に応じた適切な課題を家庭学習として課すことは重要である。【参照：県教育委員会ホームページ「学力向上のための取組～家庭学習を考えよう～」】

#### カ 小・中学校の連携を意識する

小・中学校の連携を意識し、学習指導を行っていくことも大切である。学校図書館に中学校の教科書を置くなどして、小学校の教職員が中学校で学習する内容を知ったり、中学校区内の小・中学校が合同で研修会を開催するなどして、9年間を見通した系統的な学習指導ができるようにしたりすることも視野に入れることが大切である。